

db.monitor.intervalの初期値変更

説明

Perforce Helix Core 2019.1より構成可能変数 "db.monitor.interval" の初期値が変更になりました。

旧) 初期値 : 0 → 新) 30

- ・ 0 は機能がオフになっている状態です。
- ・ 初期値は30ですが、任意の値を秒単位で設定することが可能です。

"db.monitor.interval" は Helix Core サーバー上で実行されている p4d プロセスのリストを更新するまでに待機する秒数を設定する構成可能変数です。30秒ごと(初期値)に p4d プロセスリストを更新することにより、長時間完了しないプロセスをリストから確認することができ、プロセスIDを指定して終了させることができるようになります。

手順

1. 構成可能変数 "monitor" の値を設定します。

サーバプロセスの監視が有効になっている必要があるため、"monitor" の値を1以上に設定します。
"monitor" についての詳細は『[Helix Core P4コマンドリファレンス - p4 monitor](#)』をご参照ください

実行コマンド

```
# p4 configure set monitor=n
```

2. "db.monitor.interval" の初期値を確認します。

実行コマンド

```
# p4 configure show undoc  
※"undoc"を使用し、文書化されていない機能を確認することができます
```

確認項目

```
db.monitor.interval: 30
```

活用例

完了しないプロセスを確認し、プロセスIDを指定して終了させる手順を説明します。
ここでは "p4 client -i" が完了しない場合を例としています。

1. コマンドラインから以下のコマンドを実行します。(コマンド実行user : bruno)

実行コマンド

```
# p4 client -i
```

2. プロセス情報を確認します。(コマンド実行user : super)

実行コマンド : プロセス確認

```
# p4 monitor show -ale
```

```
-a : プロセスに使用されたすべての引数を表示  
-l : 長い形式で引数を表示  
-e : 環境情報の表示
```

実行結果 : 例

```
4773 p4/2019.1/NTX64/1818849 192.168.XXX.XX R bruno bruno_ws_3974 00:00:17 client -i  
4778 p4/2019.1/NTX64/1818849 192.168.XXX.XX R super bruno_ws_3974 00:00:00 monitor show -ale
```

赤 : プロセスID [pid] 橙 : Status [Rは実行中] 青 : 実行user
紫 : 経過時間 緑 : コマンド

3. プロセスIDを指定してプロセスを終了させます。

実行コマンド : 例※コマンドの実行にはsuper権限が必要です

p4 monitor terminate 4773

実行結果

** process '4773' marked for termination **

4. プロセスが終了されたか確認します。

終了には時間がかかる場合があるため、何度か繰り返し実行して確認します。

実行コマンド

p4 monitor show -ale

実行結果 : 例1 終了プロセスが表示されます

4773 p4/2019.1/NTX64/1818849 192.168.XXX.XX T bruno bruno_ws_3974 00:01:05 client -i : [T]は終了
4794 p4/2019.1/NTX64/1818849 192.168.XXX.XX R super bruno_ws_3974 00:00:00 monitor show -ale

実行結果 : 例2 終了プロセス(ID4773)が表示されなくなります

4796 p4/2019.1/NTX64/1818849 192.168.XXX.XX R super bruno_ws_3974 00:00:00 monitor show -ale